



平成三十年度上半期、大宗漁業の加入（速報値）がまとまる

さんま棒受網・秋さけ定置・ほたて貝等養殖・漁業施設（秋さけ定置漁具）で加入実績が伸長

本年度は「ぎょさい普及推進全国運動」

「ぎょさい」で安心「ぷらす」で万全」

の二年目であり、全道各地区において加入推進に取り組んだ結果、上半期の大宗漁業である「さんま棒受網漁業」、「秋さけ定置漁業」、噴火湾地域等の「ほたて貝等養殖業」のぎょさい・積立ぷらす並びに「漁業施設（秋さけ定置漁具）」のぎょさい加入実績がまとまりました。

【さんま棒受網漁業】

ぎょさいの共済金額（契約額）は、根室地区でがんばる漁業終了による復活加入、室蘭・根室地区で契約割合の引上げがあり、二地区で前年度より六億五千一百万円増加となりましたが、補償水準（共済限度額）の低下や休漁による減少もあり、全道集計では五億九千五百万円増の八十八億四千万円、積立ぷらす（漁業者積立額）は二百万円増の一億三千九百万円の実績となりました。

【秋さけ定置漁業】

ぎょさいの共済金額は、釧路・根室地区で、近年の来遊不振が影響し補償水準が低下したこと等により、前年度実績を下回りましたが、全道集計では、契約割合の引上げ等により五億四千八百万円増加し、三百六十五億六千七百万円、積立ぷらすはクロマグロ強度資源管理による払戻判定額の引上げ等により十億七千一百万円増の二十八億円の実績となりました。

1. さんま棒受網漁業 ぎょさい・積立ぷらす 加入実績

（単位：百万円）

地 区	平成30年度		平成29年度		増減（H30-H29）	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
室 蘭	362	5	148	5	214	0
日 高	496	7	499	7	△ 3	0
釧 路	2,765	41	2,773	41	△ 8	0
根 室	5,185	84	4,748	79	437	5
北 見	32	2	32	2	0	0
稚 内	0	0	45	3	△ 45	△ 3
合 計	8,840	139	8,245	137	595	2

2. 秋さけ定置漁業 ぎょさい・積立ぷらす 加入実績

（単位：百万円）

地 区	平成30年度		平成29年度		増減（H30-H29）	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
小 樽	593	37	541	26	52	11
桧 山	111	8	96	4	15	4
函 館	773	65	669	38	104	27
室 蘭	1,797	124	1,690	73	107	51
日 高	3,228	223	3,200	135	28	88
釧 路	3,379	251	3,871	162	△ 492	89
根 室	8,416	671	8,875	415	△ 459	256
北 見	14,382	1,157	13,490	715	892	442
稚 内	3,615	233	3,345	139	270	94
留 萌	273	31	242	22	31	9
合 計	36,567	2,800	36,019	1,729	548	1,071

【ほたて貝等養殖業】

近年の価格上昇に連動した補償水準の上昇と、渡島噴火湾地区の鹿部・森・落部漁協及び室蘭地区のいぶり噴火湾漁協で契約割合の引上げが図られたことにより、ぎょさいは共済金額で六億二千八百万円増の七十四億五千六百万円、積立ぶらすは砂原漁協で漁場改善計画が新たに策定され、新規加入があったこと等により、九千万円増の四億三千万円の実績となりました。

3. ほたて貝等養殖業 ぎょさい・積立ぶらす 加入実績

(単位:百万円)

地 区	平成30年度		平成29年度		増減(H30-H29)	
	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額	共済金額	積立金額
小 樽	61	6	60	6	1	0
函 館	5,967	310	5,491	231	476	79
室 蘭	1,190	114	1,047	103	143	11
北 見	238	0	230	0	8	0
合 計	7,456	430	6,828	340	628	90

4. 漁業施設(秋さけ定置漁具)ぎょさい加入実績

(単位:百万円)

地 区	平成30年度		平成29年度		増減(H30-H29)	
	件数	共済金額	件数	共済金額	件数	共済金額
小 樽	37	179	36	166	1	13
桧 山	2	16	2	16	0	0
函 館	1	1	1	1	0	0
室 蘭	11	115	11	112	0	3
日 高	15	211	15	211	0	0
釧 路	71	1,230	76	1,307	△ 5	△ 77
根 室	46	657	46	660	0	△ 3
北 見	118	2,210	91	1,612	27	598
稚 内	2	14	2	13	0	1
留 萌	4	38	4	38	0	0
合 計	307	4,671	284	4,136	23	535

【漁業施設(秋さけ定置漁具)】

漁業施設共済(秋さけ定置漁具)については、北見地区のウトロ・斜里第一漁協で新規加入があり、件数で二十七件、共済金額で五億九千八百万円増加し、釧路管内で休漁等による減少がありました。全道集計では件数で二十三件、共済金額で五億三千五百万円増となり、三百七件、四十六億七千一百万円の実績となりました。



「漁業者の経営安定のために」第十二回

平成二十三年からスタートした「漁業収入安定対策」（ぎょさい・積立ぶらす）は八年目に入っておりますが、本年六月から、「漁業収入安定対策」北



▲杉西水産経営課長

海道推進協議会の座長を務める道水産林務部の杉西紀元水産経営課長に、この普及啓発にかける思いをイーエローページの紙面を通じて語っていただきます。

「漁業収入安定対策」事業の推進について

「漁業収入安定対策（ぎょさい・積立ぶらす）について」

漁業収入安定対策（ぎょさい・積立ぶらす）は、計画的に資源管理や漁場改善に取り組む漁業者の皆さんに対し、漁業収入が減少した場合に漁業共済の仕組みを活用して減収の補填を行う制度で、漁業経営の安定にとって重要な施策です。

これまで、道と系統団体では、推進協議会を組織して制度の普及推進運動に取り組み、平成二十九年年度末における全道の加入率は、ぎょさいが八十一%、積立ぶらすが七十五%となっており、漁業収入安定対策がスタートした平成二十三年以降、加入実績は着実に増加しています。

「地域の実態を踏まえた取り組みが重要」

一方で、全道の加入実績を見ると、地域により操業形態が異なることから、加入率はオホーツクや太平洋地域で高く、日本海地域では低い状況が続いており、また漁業種類別では、定置漁業やホタテガイ桁網漁業は

高く、二十トン未満の漁船漁業は低い状況にあります。

国では、水産基本計画において、本対策の加入率を九十%まで引き上げることを目標としており、今後の加入推進にあたっては、低利用地域の主要漁業や二十トン未満の漁船漁業の組み合わせなど、地域の漁業実態を踏まえた計画的な取り組みが必要となっております。

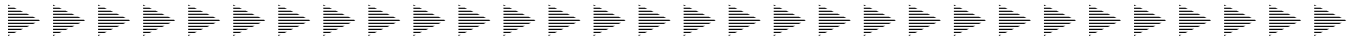
また、近年、八月以降の台風や大型低気圧により定置網を中心とした大きな被害が発生しておりますが、平成二十九年年度の漁業施設共済（秋さけ定置漁具）の加入率は十六%と低い状況であることから、万一の災害に備えるため、引き続き、加入を促進することが重要となっております。

「さらなる加入促進に向けて」

国では今年六月に漁業者の所得向上と年齢のバランスの取れた漁業就業構造を確立することを目指すため、「水産政策の改革について」をとりまとめたところですが、この中で漁業収入安定対策については、機能強化と法制化を図ることとし、必要な法整備等を速やかに行うこととしています。

現行の漁業収入安定対策は、毎年の予算に基づく事業であり恒久対策ではないことや、長期間水揚げが減少した場合にぎょさい及び積立ぶらすの補償水準等が下がること、さらには漁業施設共済の漁業者負担が大きいことなどが課題であったことから、道では、制度の恒久化や拡充について国に要請してきたところですが、今後とも、水産政策改革の動きを注視しながら、漁業者にとってより良い制度になるよう、関係団体とも連携し国に働きかけていく考えです。

依然として、漁業経営を取りまく環境は厳しい状況が続いておりますが、漁業者の経営安定に向け、今後とも系統団体と行政が一体となり、「ぎょさい・積立ぶらす」の加入促進に取り組んでまいります。



安心
経営

・ぎょさい普及推進全国運動
・平成29年4月～平成32年3月

ぶらぎよす で万全しい で安心



G 漁業共済組合／連合会・(後援)水産庁